



かわらぶき

瓦1400年の歴史、現代につづく技の妙技

「粘土瓦」は、1400年の歴史のある屋根材で、“耐久性” “耐熱性” “強度”に優れ、環境にとってもやさしい屋根材です。住宅を風雨などから守る大切な屋根。その屋根の瓦を葺く技術「かわらぶき」は、普段はあまり見られる機会がありません。身近で見られる匠の技を、お見逃しなくご覧ください。

競技概要 競技時間 10時間40分(1日目6時間30分/2日目4時間10分)

本年度は、方形架台の4面全てを使用する納まりで、軒瓦は3面を万十軒瓦、1面は一文字軒瓦での納まりとしています。また、4本の隅棟(すみむね-軒先に向かって下に傾斜する棟)の頂部に陸棟(ろくむね-水平の棟)を配しており、隅棟と陸棟の接点部分の熨斗瓦(のしがわら)、素丸瓦(すまるがわら)、鬼瓦をいかに工夫して華麗に納めるかを問う課題となります。



第31回 競技課題

前回大会 金メダリストからメッセージ!

一度、瓦に興味を持ってもらって、瓦屋さん、かわらぶき職種をちょっと調べてもらってやってもらえたらと思います!

Point

方形架台の一文字軒瓦の合端(瓦と瓦が接する面を“たがね”を使用し、隙間なく合わせる作業)の美しさが見どころになります。また、4本の隅棟と陸棟が接する熨斗瓦(のしがわら)、素丸瓦(すまるがわら)、鬼瓦の納まりなども、各選手の創意と工夫があらわれる見どころポイントとなるでしょう。



(株) 磯貝屋根工事
磯貝 明德 さん